



下野市総合計画後期基本計画に向けて

市民意識調査結果

2010年11月

市民意識調査の概要



総合計画後期基本計画(計画期間:平成24年度~27年度)を策定するにあたって、下野市では、市民意識調査を実施し市の現状や行政の取り組みに対する評価や満足度を把握するとともに、今後のまちづくりに対する意見等を調査いたしました。

今回の市民意識調査では、「下野市の暮らしやすさ」や「誇れるところ」など全9問の調査を実施しましたが、「暮らしやすいかどうか」との設問に対しては、“暮らしやすい”という肯定的な評価が、72.6%と高い割合を占めました。

「下野市に誇れるところがあるか」との設問に対しては、“他市に誇れるところがある”という回答が、65.0%と比較的高くなっています。

また、市の生活基盤、都市基盤、福祉、保健・医療、教育・文化、産業、行政に関する取り組みに対する満足度については、生活基盤の一つである上水道・下水道の整備がそれぞれ51.5%、47.9%と評価が高かったほか、医療体制に対する評価が47.1%と高く、高度医療の集積が下野市の特徴として挙げられていることから、医療の充実は本市の強みを形成しています。

- 調査対象 20歳以上の下野市民 10,000人
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 平成22年8月17日～平成22年8月31日
- 回収率 36.2%

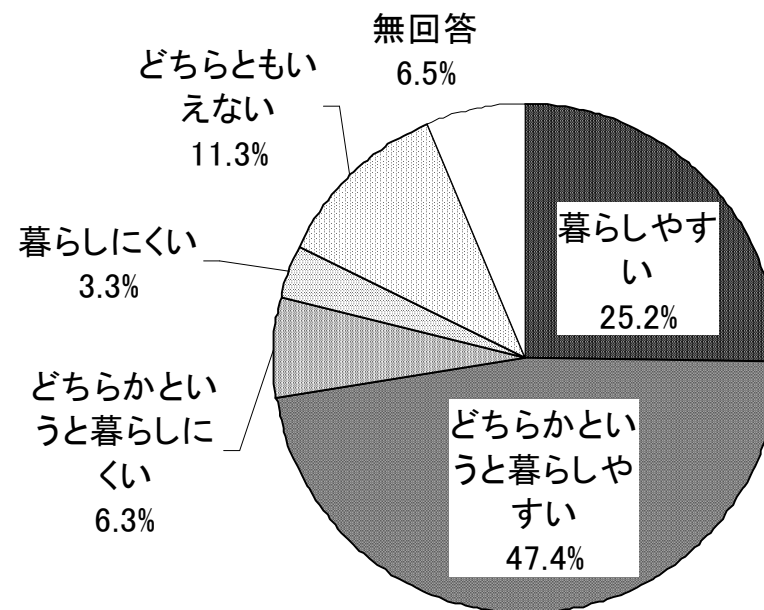
下野市の暮らしやすさ①

■ 「暮らしやすい」 + 「どちらかという暮らしやすい」 72.6%

■ 本市の暮らしやすさをうかがったところ、「暮らしやすい」が25.2%、「どちらかという暮らしやすい」が47.4%と、合わせて72.6%の人が、暮らしに満足しているという結果になりました。

■ 「どちらかという暮らしにくい」「暮らしにくい」を合わせた回答の割合をみると、約1割(9.6%)の人が暮らしにくさを感じています。

図 下野市の暮らしやすさ



(n=3,621)

■ 医療・福祉環境の充実や自然環境の豊かさを高評価

- 下野市の現状に対して、「医療や福祉環境が充実しており、健康に暮らせる」点についてもっとも高い評価が得られています。次いで「河川や平地林、公園・緑地など自然環境が豊かである」、「郊外が少なく、環境保全ができています」も高評価となっています。

図 下野市の現状についての評価(ベスト5)

1位	医療や福祉環境が充実しており、健康に暮らせる	67.5%
2位	河川や平地林、公園・緑地など自然環境が豊かである	64.7%
3位	公害が少なく、環境保全ができています	62.7%
4位	災害、犯罪が少なく安全・安心である	60.1%
5位	上下水道などの基盤整備がよい	56.6%

(n=3,621)

■ 商店・飲食店の魅力や市内の活発な事業活動は低評価

- 下野市の現状に対して、「商店や飲食店が魅力的である」点については低評価がもっとも多く、次いで、「市内企業の事業活動が活発である」、「本市が他地域の人々に認知されている」点についても低い評価となっています。

図 下野市の現状についての評価(ワースト5)

1位	商店や飲食店が魅力的である	56.4%
2位	市内企業の事業活動が活発である	46.9%
3位	本市が他地域の人々に認知されている	42.5%
4位	文化や芸術に触れる機会に恵まれている	39.3%
5位	行政サービスが充実している	32.6%

(n=3,621)

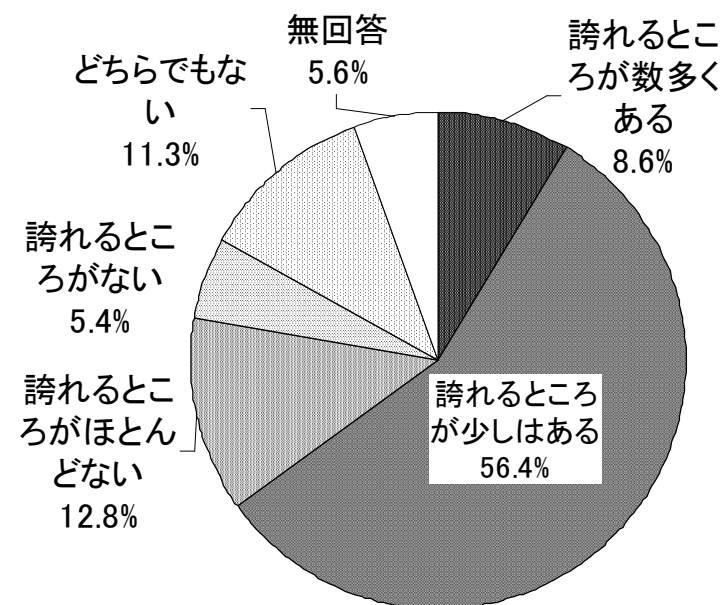
下野市の誇れるところ①

■ 「誇れるところが数多くある」 + 「誇れるところが少しはある」 65.0%

■ 本市の誇れるところをうかがったところ、「誇れるところが数多くある」が8.6%、「誇れるところが少しはある」が56.4%と、合わせて65.0%の人が誇れるところがあると考えていると分かりました。

■ 「誇れるところがほとんどない」「誇れるところがない」を合わせた回答の割合をみると、約2割(18.2%)の人が誇れるところがないと感じていることが分かります。

図表 下野市の誇れるところ



(n=3,621)

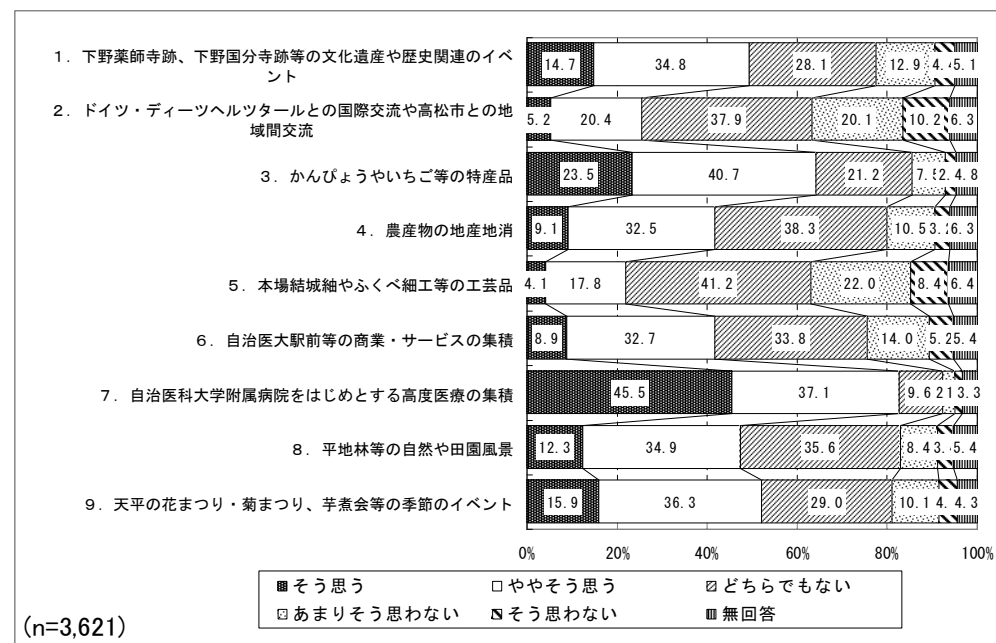
下野市の誇れるところ②

■ 高度医療の集積は他地域に誇れる本市の特徴

■ 下野市の特徴的な活動や資源などで他地域の人々に対して誇れるところは、「自治医科大学附属病院をはじめとする高度医療の集積」がもっとも高い評価を得ており、次いで「かんぴょうやいちご等の特産品」などが挙がっています。

■ 誇れるところと思わないものとして「本場結城紬やふくべ細工等の工芸品」、「ドイツ・ディーツヘルツタールとの国際交流や高松市との地域間交流」などが挙がっています。

図表 下野市の他地域の人々に対して誇れるところ



■ 生活基盤の整備が上位

- これまでの市の取り組みに対して、日常生活においての満足度をうかがったところ、「満足」「やや満足」を合わせた回答の割合を項目ごとにみると、「上水道の整備」が51.5%、次いで「下水道の整備」が47.9%、「医療体制」が47.1%の順になりました。生活基盤の一つである上下水道については、一定の満足が得られていることが分かります。

図表 市の取り組みに対する満足度

1位	上水道の整備	51.5%
2位	下水道の整備	47.9%
3位	医療体制	47.1%
4位	ごみ処理・リサイクル	45.2%
5位	公園・緑地の整備	39.6%

(n=3,621)

■ 産業振興と行財政運営が上位

- これまでの市の取り組みに対して、日常生活における「不満」「やや不満」をあわせた回答の割合を項目ごとにみると、「観光の振興」が36.4%、次いで「商業の振興」34.2%、「工業の振興」30.0%の順になりました。産業の振興に対する取り組みについて、不満が高くなっています。

図表 市の取り組みに対する不満度

1位	観光の振興	36.4%
2位	商業の振興	34.2%
3位	工業の振興	30.0%
4位	市の財政運営	28.4%
5位	市の仕事の効率性	27.7%

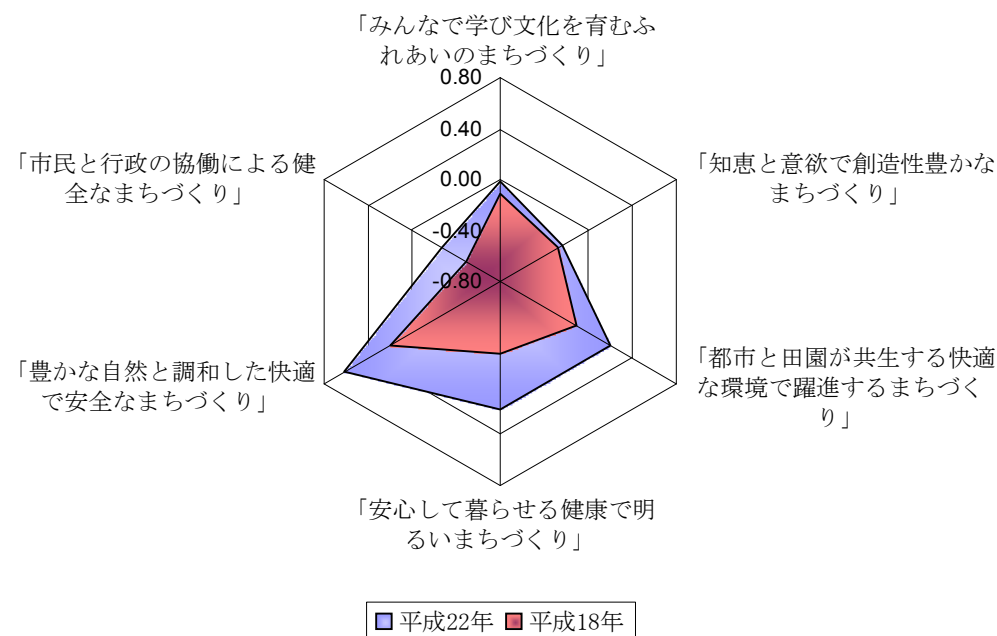
(n=3,621)

市の取り組みに対する評価①

■ 「豊かな自然と調和した快適で安全なまちづくり」に対して高評価

- これまでの市の取り組みに対して、政策別に満足度を比較すると、「豊かな自然と調和した快適で安全なまちづくり」がもっとも高い評価を得ています。
- 一方で、「知恵と意欲で創造性豊かなまちづくり」「市民と行政の協働による健全なまちづくり」は低い評価となっています。
- 過去調査(平成18年度調査)と比較すると全ての政策で満足度が上がっています。

図表 市の取り組みに対する評価(政策別)

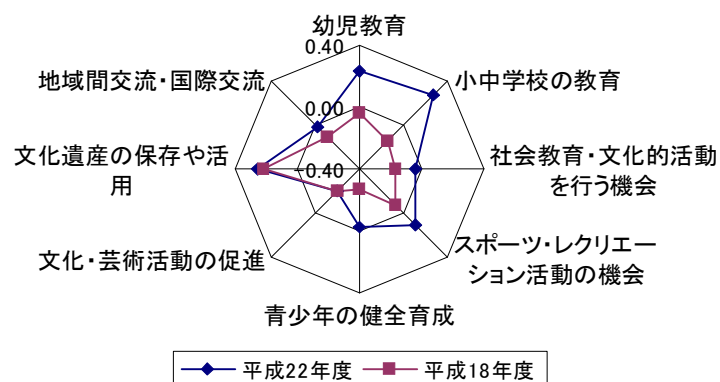


注:これまでの市の取り組みに対して、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」との回答をそれぞれ4点、2点、0点、-2点、-4点とし、回答割合を加重平均にして算出。

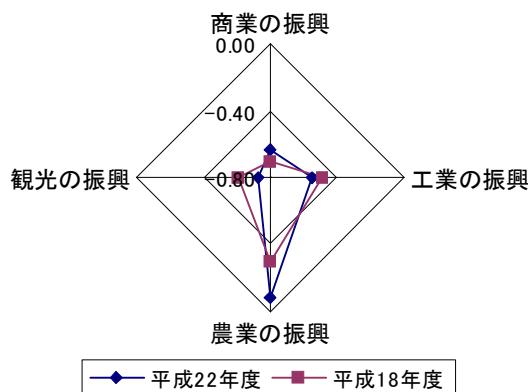
市の取り組みに対する評価②

図表 市の取り組みに対する評価(施策別・前回(平成18年度)調査との比較)

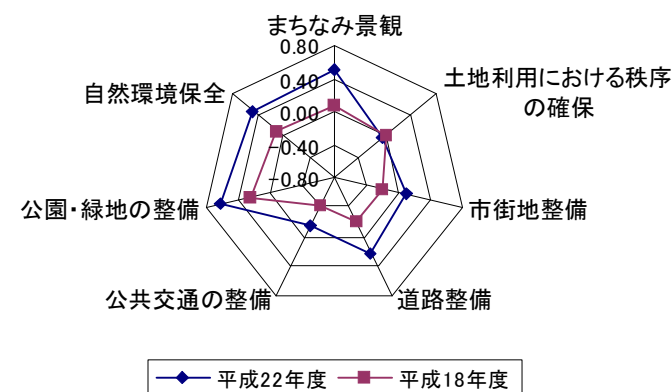
みんなで学び文化を育むふれあいのまちづくり



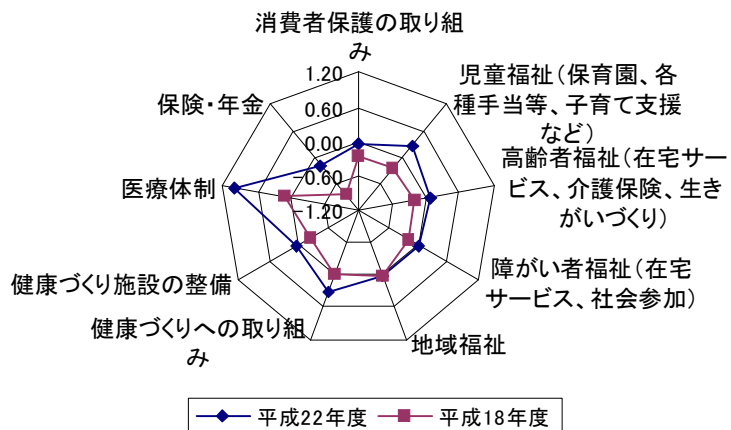
知恵と意欲で創造性豊かなまちづくり



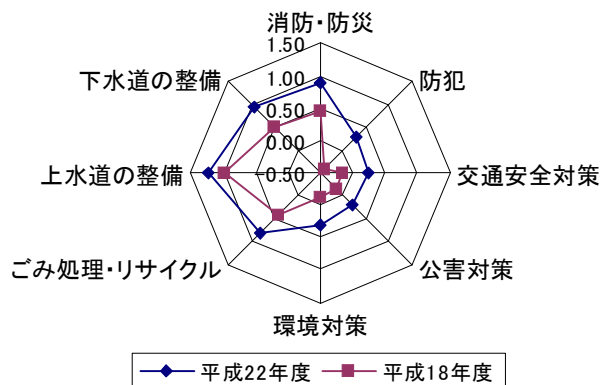
都市と田園が共生する快適な環境で躍進するまちづくり



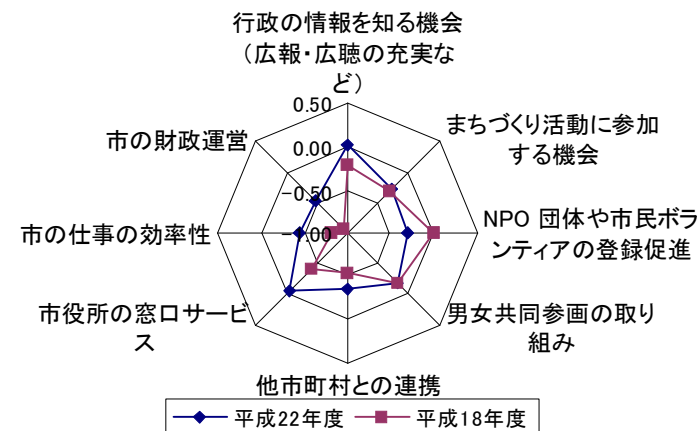
安心して暮らせる健康で明るいまちづくり



豊かな自然と調和した快適で安全なまちづくり



市民と行政の協働による健全なまちづくり

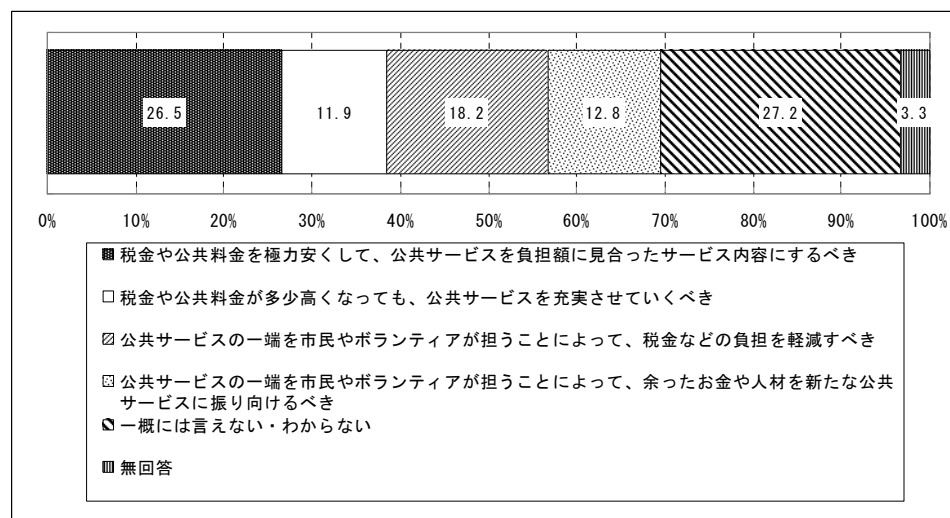


注:これまでの市の取り組みに対して、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」との回答をそれぞれ4点、2点、0点、-2点、-4点とし、回答割合を加重平均にして算出。

■ 公共サービスの経済的負担を軽く

- 公共サービスの負担のあり方について、「税金や公共料金を極力安くして、公共サービスを負担額に見合ったサービス内容にするべき」との回答が26.5%と最も多くなっています。次いで、「公共サービスの一端を市民やボランティアが担うことによって、税金などの負担を軽減すべき」との回答が18.2%となっています。

図表 公共サービスの負担のあり方について



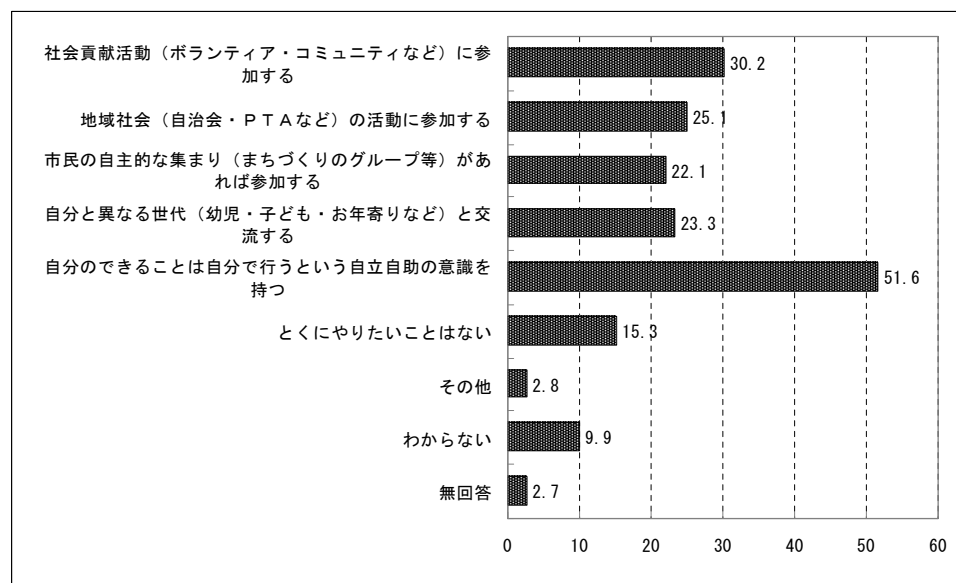
(n=3,621)

今後の行政と市民との関係のあり方②

■ まずは「自立自助」

- ボランティアやコミュニティ活動に対する参加意欲について「自分のできることは自分で行うという自立自助の意識を持つ」という回答が約半数となりました。
- また、「社会貢献活動(ボランティア・コミュニティなど)に参加する」という積極的な意見も比較的高くなっています。
- 「とくにやりたいことはない」といったまちづくりへの参加に消極的な回答は比較的低い割合にとどまっています。

図表 ボランティアやコミュニティ活動についての関心



(n=3,621 複数回答)

■ 高齢者福祉が第1位

- 今後力を入れて欲しい施策をうかがったところ、「高齢者福祉」が26.3%、次いで「防犯」が19.2%、「保険・年金」が16.0%などとなっており、安全・安心に対する関心が高いことがうかがえます。

図表 今後力を入れて欲しい施策

1位	高齢者福祉	26.3%
2位	防犯	19.2%
3位	保険・年金	16.0%
4位	市の財政運営	14.3%
5位	小中学校の教育	13.0%